

黄斑円孔

豊田木材株式会社

豊田 信一

第41回木と暮しのふれあい展が開催された10月5日(土)、6日(日)は、病院のベッドの上にいる事態となってしまった。

当組合の最大イベントに参加できなかった経緯を、懺悔の気持ちを込めて記したいと思います。

9月16日の敬老の日、30年来携わっているミニバス(小学生のバスケットボール)の練習試合があり、3年生以下の低学年という条件だったので、老体にむち打ち審判を買って出た。試合が進むうち、テーブルオフィシャルのポゼッションアロー(ボール権がある方を示す矢印)がどっちを向いているか見えなくなってしまった。また視力が落ちたぐらいの感覚だったのだが、帰り道何の気なしに片眼ずつで見ると、左眼の見え方が歪んで見える。これはおかしいと思い、地元の名医A眼科を受診。

『黄斑に穴があいているようですね、来週もう一度来てください』

6年前に右眼を同じ症状で手術をしていたので覚悟をして一週間後

『紹介状を書きますからS.L病院で診てもらってください』

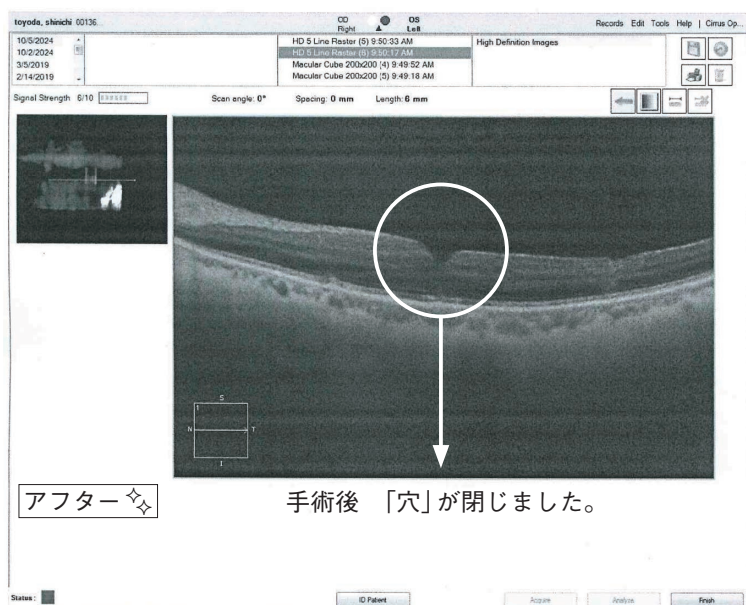
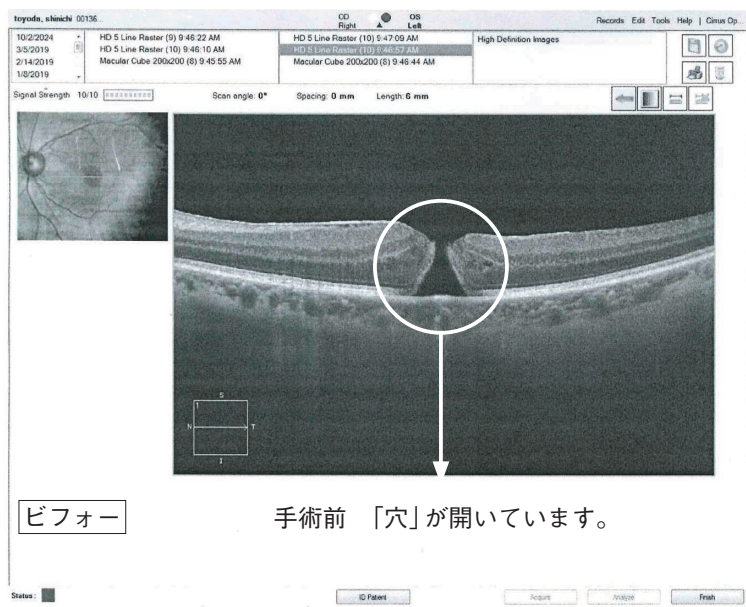
先生やっぱり手術でしょうね？

『そうですね、注射もありますけど、まあしっかり診てもらってください』

なかなか予約の取れないS.L病院の眼科へ10月2日漸く受診。6年ぶりでは懐かしいなどと感慨に浸る間もなく、次から次へと検査。しばらく待つと診察室から呼ばれ中へ

『A先生から黄斑に穴があいているというお手紙でしたが、検査の結果その通りです。金曜日なら夕方最後の時

眼底断層写真(手術前、手術後)



間で手術できますが』

今日は水曜日だよな。先生、今週ですか？土曜日と日曜日に用事があって。

『その先になるとだいぶ後になってしまいます、これ以上穴が大きくなると視力が戻らなくなりますよ。他の病院を紹介しましょうか』

瞬間、河合委員長の顔が浮かんだが、先生金曜日にお願いしますと声が出ていた。

10月4日金曜日朝一で入院、病室へ。点滴の針を刺されるといきなり病人モード。手術の予定が早くなったのでこれから食事はできません。手術は2時スタート。車椅子で手術室へ。事前の説明で痛いのは最初の麻酔の注射だけですからと聞いてはいたが、6年前がどうだったか思い出せない、手術室の椅子に座り準備が着々と進んでいく

『確認です。手術するのはどちらの眼ですか？』

左です。

『それでは始めます。指を見て下さい、左、右、右上、はいそのままにしてください、麻酔の注射をします』

事前に30分から1時間程度と聞いていた手術は50分で無事終了。ただし辛いのはこれから、ガスが注入されているので寝るときはうつ伏せ、起きているときもなるべく下向きの体勢。初日の夜は2時間くらい眠れたか、ほとんどウトウト状態。

10月5日の土曜日は朝からあいにくの雨。今までも「木と暮しのふれあい展」はどちらか一日は天気が悪かったな、などと思いだしながらベッドにうつ伏せ。術前には『三日くらいはうつ伏せ頑張ってもらわないと』と言われていたが、日曜日の診察で横向きOK。雨も上がり、今日は大盛況だろうな・・

当初、入院は一週間の予定だったが術後特に問題がなかったので五日間で退院となった。

経験者から一言・・・

「コウレイシャの仲間入りをすると、視力が落ちたりかすんだりぼやけたりをとかく年齢のせいにしてがちですが、たまには専門医に診てもらおうとそれは治る病気かもしれませんよ」

河合委員長 来年は頑張ります！



ビフォー

決戦は金曜日

(可愛いピンクの手術着で挑みます！)



アフター

手術後